

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life

2
2020

VOL. 173



開祖随感

妙法を呼び奉る

こちらの心が浄まると、この世界がそのまま「天人常充満」の世界になる、と「如来寿量品」に説かれています。けれども私たちにはなかなかそうは見え、社会のさまざまな汚ればかりが見えてしまうのです。しかし、まわりの汚れを見る前に、自分の心の汚れを除く努力のほうが大切ではないでしょうか。

「口に妙法を呼び奉れば、わが身の仏性も呼ばれて必ず顕われ給う」と日蓮聖人は教えられました。法華経には、仏さまの願い、諸菩薩の願い、そして教知れぬ人びとの願いが込められています。その経典を毎日、朝夕に読誦する行によって自分が次第に浄化されていくと、「困った人だ」と見ていた人が、そ

の奥にけがれの無い心を持っているのが見えてきて、それに気づかずにいる不愍さに胸が痛んできます。

桑名教会の信者さんが、こんな説法をしてくださいました。大聖堂の当番団参で心の底まで洗われた気持ちになったときに、ご本仏さまが自分にはほほえみかけてくださっているのが見えて、「ああ、いままで自分の目が濁っていて仏さまの本当のお姿が見えなかったのだ。みなさんのきれいな姿が見えなかったのだ」と初めて気づけた、とおっしゃるのです。

(『開祖随感』9, P. 156-157)

Living the Lotus 2020年2月号 (Vol.173)

【発行】立校成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 鈴木健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



生きがいを見つけよう

立正佼成会会長 庭野日鑛

「お前も、死ぬぞ」

二月は、涅槃会ねはんえの月です。涅槃会は、釈尊しやくそんご入滅にゅうめつの日とされる二月十五日に、仏教徒がそのお徳をたたえ、仏の教えの学びを深める日ですが、では、ご自身の「死」をとおして、釈尊は私たちに何を伝えられたのでしょうか。

私は、「生きとし生けるものは、みな、いつか必ず死を迎える」という実相じつそうを示されたのだと受けとめています。

仏教では「生死しょうじいちによ一如」といいますが、生きることと死ぬことは、ワンセットです。生があり、死があってこそ「命」なのです。ところが、私たちはその一方の「死」を、なかなか受け容れられません。多くの人にとって「死」は、恐ろしくて、避けておりたいものといえるでしょう。しかし、だからこそ釈尊は、「お前も、死ぬぞ」と、この世の実相を、身をもって語りかけてくださったと思うのです。

ただ釈尊は、もちろんご自身の死をとおして、そのことだけを教えているわけではなく、生まれては死に、死んで生まれ、という「いのち」の大きな流れのなかで、私たちが人としてこの世に生まれ、生きる意味をも教えているといえないでしょうか。つまり、ただ死ぬためだけに生まれてきた人は、一人もないということです。

法華経ほけきょうの法師品ほっしほんに「衆生しゅうじょうを愍あわれむが故ゆえに此この人間にんげんに生しょうずるなり」(現世で苦しむ人びとを愍む心から、人間界に生まれてきた)とあります。この経文に照らせば、悩みや苦しみの絶えない私たち人間を見かねて、釈尊がこの世にお出ましになったと受けとめることができます。そして、それは釈尊だけではないはずで、そのことをふまえて、つぎに私たちの生きる意味について考えてみましょう。





生きる意味とは

法師品には、「衆生を哀愍し願って此の間に生まれ」ともあります。苦しみの多いこの世に、私たちは願って人間として生まれてきたというのです。見方を変えると、苦難もあれば喜びもある娑婆世界だからこそ、そして、私たちが真理や実相をつかむことのできる人間であればこそ、いまここに生きているということになります。

身近な人や家族、あるいは自分が、病気をしたり、亡くなったりするのは、ほんとうにつらく、悲しいことです。ただ、そのつらさや悲しみやおそれを心底味わうと、真実を見る目が開かれます。それは、苦しみ、悲しみ、つらさそのものが、救いのいとぐちになるということです。

そして、ここでいう「救い」というのは、たとえ人生のどん底であえいでいるときでも、そこに生きる意味や生きがいを見出し、前向きな力に変えていくことです。

救いとか生きがいといっても、おおげさに考えることはありません。それを得るきっかけは、たとえば、夕飯の料理に最善を尽くすとか、あいさつを気持ちよくするなど、ささやかでも、あなたにしかできないことを喜びとして、それがまわりの人に喜ばれる、といったことです。それが、生きる意味や生きがいの核心ではないでしょうか。

精神科医で、ナチスの強制収容所体験で知られるV・E・フランクは「人間は、生きる意味を求めて問いを発するのではなく、人生からの問いに答えなくてはならない」といっています。私たちは、運命という自分ではどうにもならないことを、一つ一つ受け容れながら、そのつど前向きな価値をみつけて生きていくことが大切なのです。

それは、悟りとも気づきともいえるものですが、その繰り返しが人生なのでしょう。良寛は「世のなかに何が苦しと人間はば 御法を知らぬ人と答へよ」と詠んでいます。仏の教えをいただく私たちは、いつ、どのようなときも、生きがいをもって生きる法をすでに頂戴しているのです。

(『佼成』2020年2月号)





一人ひとりの内なる仏さまを礼拝して

元国際仏教教会責任者
山本宜亮

この体験説法は2019年11月10日に大聖堂で行なわれた
脇祖さまご命日式典で発表されたものです。

脇祖さまご生誕130年記念の佳き年に説法のお役をいただき、誠に有り難うございます。

今年、私は70歳の古希を迎えました。本日は、奉職後40年以上にわたり信者さん方にお世話になり、最高無上の法華経にお導きいただいたみ仏さま、開祖さま、会長先生、脇祖さまに心から御礼を申し上げる機会をいただいたことに感謝申し上げます。

私は、愛知県の知多半島の海辺で生まれ育ちました。父は太平洋戦争に出兵した日本兵の生き残り、中国から南方諸島に渡り、日本軍のほとんどが玉砕したペリリューの戦いの残存兵でした。大激戦地を生き抜いてきた父は大変剛毅な人で、幼いころはよく父に叩かれて育ちました。そんな私は23歳のとき、家に引きこもるようになっていました。父のことが憎たらくて仕方ありませんでした。

次第に体力も衰えていき、父へのわだかまりを何とかするため、宗教に救いを求めようと思い立ちました。最初はキリスト教の牧師さんに相談しようと思いましたが、体力も落ちていたので「身近にあるお袋の宗教でいいや」と、軽い気持ちで母に相談しました。

1962年に立正佼成会に入会していた母は、私が引きこもっていた当時、知多教会に何度も参拝するようになっていました。おそらく母は私のことが心配で、支部長さんや教会長さんに相談していたのだと思います。当時の脇谷昌男教会長さんが私に、「家にいたのではお父さんとの仲が大変だろうから、一週間泊りがけで教会に遊びに来なさい」と言ってくださいました。

私も家にいるのが嫌でしたので、一週間分の着替えを持って遊びに行きました。当時の知多教会はプレハブの建物で、法座席には大きなストーブがありました。私は一日中ストーブの周りで過ごし、教会に置いてある本を読んだりしていました。しばらくすると教会長さんの運転手をしたり、一般さんの布教のお供をしたり、青年部活動にも参加するようになりました。一週間の約束が、気づけば3年間も教会に寝泊まりし、すっかりお世話になっていました。

ちょうど26歳になっていた私は、「親に感謝することを教えていただき、父ともやっていける自信がついたので、家に帰らせてください」とお願いしました。すると、脇谷教会長さんは「本部に学林という学校があるから試験を受けてみなさい」とおっしゃるのです。そこで学林本科を受験させていただきましたが、結果は不合格でした。ところが、脇谷教会長さんは「もう一度チャレンジしなさい」とおっしゃるのです。私のような者が受かるはずはないと思いつつ、3年間も無料でご



大聖堂で説法する山本元責任者

飯を食べさせていただいた恩義があったので、しぶしぶ再度受験させていただきました。すると今度は合格のお手配をいただき、そのおかげさまで今日の私があります。

奉職後、35歳でハワイ教会長のお役を拝命し、10年間ハワイの信者さんと修行させていただきました。当時のハワイは110万人の人口のうち、日系人は25万人を数えました。日本語を話す信者さんといえば、英語しか話せない日系2世や3世もいらっしゃいました。

麻薬中毒になり自暴自棄になっている青年。家族で営んでいた養鶏場が借金で駄目になってしまった壮年さん。アメリカ人と結婚してハワイに移住してきたのに、夫婦関係が上手くいかない女性。このような信者さんをどのように救わせていただいたらいいのか毎日思い悩みました。そして、そのたびに法華三部経を読誦し、開祖さま、会長先生のご著書を読みあさりながら、手どりや導きに歩き回る日々を過ごしていました。

あるとき、「仏性の自覚と開顕、すべての人の仏性を拝んでいくことが菩薩行の基本」という開祖さまのご指導が心にとまりました。「仏性を自覚するとはどういうことだろう?」と考えていたとき、如来寿量品第十六の「衆生既に信伏し 質直にして意柔軟に 一心に仏を見たてまつらんと欲して 自ら身命を惜まざるに我及び衆僧 俱に靈鷲山に出ず」の一節が、魂に響いてくるように私の中に入ってきました。

「そうだ、この大聖堂にご安置されている本仏釈尊のいのちが、私の内側に充ち満ちている。私を生かし、導いてくださっている。まず、その本仏釈尊を見奉

ることが仏性を自覚するうえで大切なのだ」と思い、恋慕渴仰の心で、朝から晩まで一心に「南無久遠実成大恩教主釈迦牟尼世尊」と唱え、本仏釈尊を見奉る修行をしました。そして3年間一心に見奉らんと続けたある日、突然、私の内側に本当に本仏釈尊の御いのちがあると気づくことができたのでした。

そして、信者さんの救いが顕れる中で教えていただいたのは、家族一人ひとりがお互いの仏さまのいのちを自覚し、拝み合い支え合えば、世間の中で降りかかるどんな問題や苦労も乗り越えて、救いを顕すことができるということでした。家族ほどとても大きな徳分を仏さまからいただいている縁起の関係はないと気づかせていただきました。

その気づきをいただいてハワイから帰国した私は、鳥取教会長を4年、松戸教会長を7年、九州福岡の宮田教会長を1年と、信者さんと共に有り難く仏道修行を続けさせていただきました。

その私が59歳のときにいただいた辞令が、南アジアのスリランカ教会長のお役でした。スリランカは北海道よりやや小さな島国で、人口は2000万人です。シンハラ人、タミール人、イスラム教徒等の多民族が居住し、それぞれ違う言語をもっています。宗教も仏教、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教が混在しています。

スリランカ教会の信者さんは、ほとんどがシンハラ人の上座部仏教徒です。スリランカに仏教が伝わったのは紀元前300年と言われています。日本の仏教よりも長い歴史と伝統をもっています。教会の信者さんも、ご自分のお寺と出家のお坊さまをととても大切にされていました。また、ほとんどの信者さんは、英語では

なく主にシンハラ語を話していました。ところが、まだシンハラ語の『法華三部経』や『法華経の新しい解釈』など、教材となるものはほとんどありませんでした。あるのは、出家僧侶が英語からシンハラ語に翻訳してくださった読誦用の経典のみでした。

どのように法華経のみ教を信者さんにお伝えしたいのかと悩みましたが、やはりここでも、ハワイ教会長時代に気づかせていただいた「本仏釈尊のいのちを自覚し、拝むこと」をお伝えしていこうと決定しました。会長先生から、方便として仏性という言葉を使えと置き換えることをお許しいただき、「本仏釈尊は私たち一人ひとりの内側にも存在してくださっている。だからそのいのちを拝み、感謝し、供養していくことが大きな救いになる。これが、法華経の大切な教えです」と説かせていただきました。

その具体的な実践は、家族一人ひとりの仏さまを拝み合い、互いの仏さまを尊び感謝することで、それが家庭の平和につながるとお伝えしました。

そのように法華経の教を説かせていただくようになったころ、スリランカ教会の一粒種だったAさんが、徹底して私を罵倒するようになりました。

「山本は無能なので、こんなに信者が減ってきた。何もできない教会長だ。私が開祖さまからスリランカ布教を託されたのだから、私がスリランカの開祖なのだ。山本は早く出て行け。スリランカに再入国できないようにしてやる」と、私は式典のたびに1時間以上も罵声を浴び続けました。

それまで私は、自分の内なる仏さまを信じ、人さまの中の仏さまを拝むことをお伝えしていたのですから、どんなに罵倒されても、Aさんの仏さまを拝まなければ

法華経の証明はできません。しかし、スリランカに帯同していた私の妻は身の危険を感じ、日本の銀行に貸金庫を借りて、子どもたちに「私たち夫婦に何かあったら、これを開けて対処するように」と話をしていました。そんな状態が5年近く続きました。毎年11月、海外教会長会議で一時帰国するたび会長先生に愚痴を聞いていただき、励ましていただきました。

海外の教会は、その国の法律に則って法人登記をする必要があります。上座部仏教を守り抜いてきたスリランカでは、大乘仏教団体の登記は大変難しく、何年かかっても行政の許可をいただくことができませんでした。そのような中、幹部さんたちの大変なご努力により、立正佼成ダルマ財団という名称で、奇跡的にNGO仏教社会福祉団体として登記することができました。

その一方、Aさんは教会の名称が変わったことに激怒され、「私は、立正佼成会スリランカ教会の名前で開祖さまから布教を託されたのだから、別にやっていく」と教会を去っていかれました。

教会の信者さんや幹部さんのほとんどはAさんの導きの子です。妻とは「二人だけになるかもしれないけれど、会長先生から辞令をいただいて来ている以上、二人で頑張ろう」と話し合いました。ところが意外にも、信者さんはみなさん私についてきてくださったのです。Aさんはこのことに大変驚かれたようでした。

シンハラ語ができない私は、教を一人ひとりに伝えたり、手どりをしたりすることはできませんでした。しかし信者さんは、5年間罵倒され続けてもAさんの仏さまを拝み続けた私の姿を見てくださっていたようです。今にして思えば、私はAさんを通して、法華経の神髓

をスリランカの信者さんにお伝えするチャンスを本仏釈尊から頂戴していたのです。本仏釈尊の存在と働きを絶対と信じ、開祖さま、会長先生にご教導いただいた法華経の教えを絶対と信じ行じていくことが、これほどまでに有り難いことかと実感させていただきました。

それからは、スリランカ人の素晴らしいご近所付き合いや親戚の強いつながりをもとに、各自が家庭を拠点にして教えを学び合う家庭拠点法座布教を始めました。自らの誓願制で、今では全土に90人ほどの家庭拠点長さん、いわゆる主任さんのような存在が誕生しています。

2017年には、光祥さまをお迎えして新道場の入仏・落慶式典もさせていただきました。2600年の歴史を有する上座部仏教の総本山と言われるスリラン

カに、上座部仏教の僧侶10人による読経の中、久遠実成の本仏釈尊像を光祥さまの御手によって除幕していただいたときは、大きな感激と感謝の思いでいっぱいになりました。

かつて、脇祖さまを通じて「立正佼成会をもととして法華経が世界万国に弘まるべし」とのご神示がありました。ますます多くの外国の方々が、日本でそれぞれに仕事を担い、日本を支えてくださる時代となるでしょう。日本に在留する外国の方々の手どりを通して、彼らの善き縁となれるよう、これからも一人の在家信者として修行精進をお誓いいたします。

み仏さま、開祖さま、会長先生、脇祖さま、脇谷教会会長さん、そしてみなさま、こんなに素晴らしい人生をいただき、本当に有り難うございました。



2017年に行なわれたスリランカ教会青年セミナー

法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經

勸持品第十三（前半）

この品の初めのほうは、お釈迦さまの養母であつた摩訶波闍波提比丘尼と、妻であつた耶輸陀羅比丘尼が授記されるくだりです。ここで、先の竜女の物語を受けて、〈女人成仏〉のしめくりがつくわけですが、この二人の比丘尼のように、教養も高く、徳も積み、しかもお釈迦さまから直接教えを受けた婦人が、なぜ最後まで授記されず、文殊師利から教えを受けた、いわば孫弟子であり、しかも異国の娘である竜女のほうが先に授記されたのか……これには次の二つの教えがこめられていると受け取るべきです。

白紙の心で法を素直に受け取る

第一は、前の阿難・羅睺羅の場合と同じケースです。お釈迦さまを赤ちゃんの時から手塩にかけて育てたとか、かつて夫人として子までもうけた仲であるとか、そういうあまりにも身近な人の教化の難しさを、ここで教えられているのです。

竜女と文殊菩薩のように、単なる師弟の間柄であれば、むしろすらすらと法を受け入れることができるのに対して、指導者とごく身近な間柄にある母や妻は、肉親としての感情がわざわざ、かえって法の受け入れがスムーズにいかないことが、一般的にはおおいにありうるのです。

そのようなことを教えるために、わざと授記を遅らされたものと解することができます。従って、何もこの二人の比丘が竜女に劣っていたのでは決してないわけです。

第二に、「教えを正しく伝えるかぎり、だれが伝えようと問題ではない。また、それを素直に受け取るかぎり、教育や教養のあるなしは問題ではない。みんな仏の悟りを得られるのだ」ということが、教えられているのです。お釈迦さまの直接のお弟子ではなくても、何千年も後世の人間であっても、またどんな国、どんな民族に属する人であっても、そんなことは一切問題ではなく、白紙の心で法を素直に受け取れば、それで救われるのだということです。現代のわれわれにとって、非常にありがたい教えだと思います。



ぼ さつ ぐ きょう
菩薩の弘教の誓い

さて、《^{かんじほん}勸持品》の中心となるのは、この後のほうで、法華経のこれまでの説法に深く感動し、特に《^{だいばだつたほん}提婆達多品》において〈すべての人間は平等に仏性をもっている〉という真実を現実^{げんじ}に即して教えられた菩薩たちが、このすばらしい教えを命をかけて守護し、実践し、説きひろめることを、力強く誓う段であります。

〈勸持〉というのは、〈受持を勧める〉という意味ですが、この品では、人に勧める言葉はほとんど述べられておらず、みずからの決意を誓う言葉に終始しています。人に勧めるには、先ず自分自身に固い決意ができていなければならず、また自分自身が実践してみせなければ、ほんとうに人を導くことはできないわけですから、この《勸持品》という題名もなかなか意味が深いといわなければなりません。



(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』

佼成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 133-136)

生きる意味とは

涅槃会の月を迎えました。会長先生は、今月号のご法話で、釈尊は自らの死を通して、生あるものは必ず死ぬとの実相を示されましたが、同時に、法師品の「願生」の如く、人間としてのいのちには意味があるとも教えていただきました。

生きる意味とは、自らに与えられている役割に気づき、それを精一杯発揮し、まわりの人に喜ばれるということです。

かつて「夢ポッケ」配布ボランティアに参加した小学生がいました。義眼を長時間着けていると片目に激痛が走る彼でしたが、戦災孤児の子どもたちとの出会いにより、ポッケの配布期間中、義眼を一度も外すことなく、活動に参加し続けました。今自分に出来ることは、それしかないと頑張った彼の姿勢は素晴らしかったです！

変えられない運命を受け入れながら前向きに生きる生き方を学ばせてもらいました。

願って生まれてきた我がいのちを、精一杯輝かせたいものです。

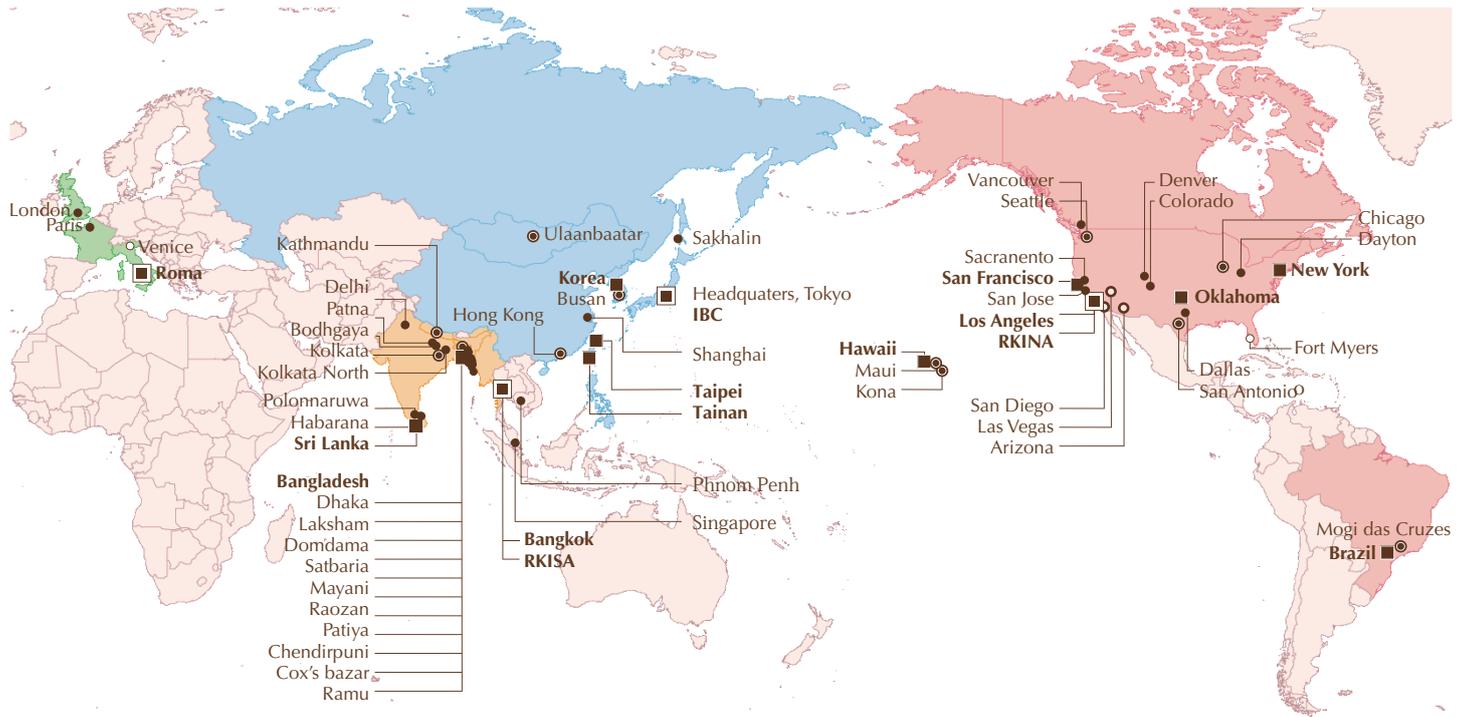
国際伝道部長

齋藤 高市



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
 TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
 Email: info@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
 TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
 TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
 POBox 33636, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
 Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
 POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
 TEL: 1-650-359-6951 FAX: 1-650-359-6437
 Email: info@rksf.org URL: <http://www.rksf.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

- Rissho Kosei-kai of Sacramento**
- Rissho Kosei-kai of San Jose**

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
 TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
 TEL: 1-773-842-5654
 Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
 POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
 TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
 Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA
 TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
 URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437
 Email: info@rkina.org URL: <http://www.rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
 (Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA
 TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745
 Email: dharmasanantonio@gmail.com
 URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
 TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261
 Email: rkseattlewashington@gmail.com
 URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
 TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
 Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>
Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

Risho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Rissho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Rissho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL/FAX: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya

China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni,

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Rissho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia

TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

2F Ikh Mandal building, Khurenbulag bag, Bayan-Undur sum,
Orkhon province, Mongolia

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Paris

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.ibt-rk.org>